

第二章 原始の日本

「縄文記号」

わたしは、日本古代史について、幾人かの先生が書いたものに学びました。その中で、どうも、齋藤守弘先生という方が、学問的にもっとも正しく、深い研究をしておられる。わたしはそう判断しています。齋藤先生は、講談社文庫の『神々の発見』の著者です。（この本は、二〇〇五年八月現在、売り切れ状態。）先

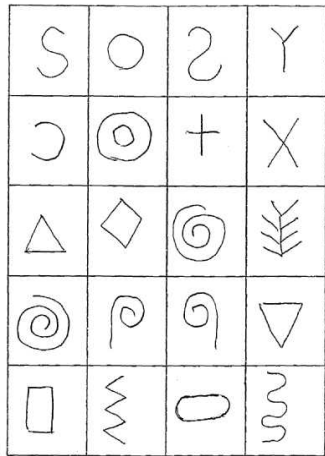
生は、世界の古代遺跡と日本の古代遺跡の共通性を発見しました。とくに、刻まれている古代人の記号の共通性を発見しました。そして、先生はその記号に、「縄文記号」と命名しました。実は世界共通の記号ですが、日本列島には、そういう太古の文化の痕跡が多く遺っています。四方を海に囲まれ、戦争により古い文化の痕跡を消されることが、少なかったからです。日本列島におけるそういう保存の良さも記念し、世界共通の記号に「縄文記

号」と命名しました。「極東の日本の縄文遺跡を調べると、かえって研究が世界的に進む、そのような世界共通の記号」という意味です。

日本列島における太古の文化の痕跡は、縄文遺跡のみではありません。『日本書紀』『古事記』という書物や各地の神社や今なお続いている皇室の儀式。実はこういう、日本人にとってはあたりまえのものの中に、日本と世界の太古の文化の謎を学問的に解き明す、大切な手がかりを、次から次へと発見していく。

齋藤守弘先生は名探偵のようです。

ここで誤解してはいけません。以上のことは、日本民族が優れているという意味ではありません。日本列島は、世界の歴史において、全体的に比較すると、わりと平和な列島であったから、太古の文化の保存が優れている。学問的に大切な手がかりが豊かである。まさに世界遺産に指定し、ゆっくり研究したい文物や風習が豊かである。貴重な博物館のような列島である。そういう意味です。



齋藤守弘先生自筆
「縄文記号」

齋藤先生の方法

齋藤先生は学問的に正しい。わたしがそう考えるのは、以下の理由からです。もともと先生は、東京教育大学で物理学を学ばれたから、科学的とはどういうことか、について、敏感です。それのみでなく、先生の古代史研究は、視野が総合的であり、人間、この場合は、古代人の全体性を鋭く見つめています。その一。先生は、考古学の最新成果を実証

の基礎としています。その二。各地の神社のあり方や社伝（神社に保存されている言い伝え）について歩いて調べまわっています。これは民俗学の柳田国男のような仕事です。その三。奈良時代にまとめられた、まじめな国家事業の、『日本書紀』をていねいに調べています。その四。漢字の起源の研究者として有名な、白川 静先生の『字統』という本を調べ、『日本書紀』の中のひとつひとつの漢字に込められたまじめな想いを、ていねいに

分析しています。その五。先生はもと、SF（SFを現代の神話と言ってもよいです。）の研究者でした。今は、『日本書紀』『古事記』を含む、世界の神話を比較研究しています。

つまり、考古学の客観的な事実から、神話というものをまじめに遺した、古代人の主体的なところまで。先生が古代人を見つめる、そういう総合性。わたしは、この数年間、ロック・バンドの追っかけではなく、齋藤守弘

先生の古代史研究発表会の追っかけをやっています。『神々の発見』の次の著作の内容が、日々蓄積されているのを、追っかけています。

神話の奥に

それにしてもなぜ、『日本書紀』『古事記』という神話が、太古の文化の痕跡なのでしょうか。『日本書紀』は、各地の古い古い言い伝えを、かなり公平に、集大成したものです。『古事記』は、『日本書紀』に対抗して、文

学的にまとめられたものようです。

『日本書紀』がていねいに集めた、各地の古い古い言い伝えが、なぜあつたか。奈良時代より前に、どうも何百年も連綿と続いていたらしい、各地の古い古い言い伝えが、なぜあつたか。その古い古い言い伝えが、なぜ、神話というフィクションの形式であつたか。

齋藤守弘先生はそこに、縄文時代や弥生時代の古代人らしい、人間ドラマがあつたと、推理しています。また、人間社会が母系制か

ら父系制へ転換したことと、古代人が言い伝えを、神話というフィクションの形式にしたことの、つながりを、鋭く推理しています。詳しいことを、わたしがへたにご紹介することは、齋藤先生に対して失礼です。齋藤先生の次の著作の出現を、待っていたかもしれません。

申し上げたいことは、『日本書紀』を、ただの作り話として、軽視したり、軽蔑したりしてはいけない、ということ。もちろん、

神話を神話のまま、信仰しても、現実の生活の役に立ちません。大切なことは、その奥に、縄文時代や弥生時代の素朴な人間ドラマが隠されていた、ということ。神ではなく、素朴な古代人の人間性を見つめることが大切です。これが、すれっからした文明人が忘れた、やすらぎを回復する、正しい道です。原始人は確かに、やむをえず、乱暴な面もありました。しかし、原始人にある素朴さを、軽視したり、軽蔑したりしてはいけません。

縄文るねっさんす

JOMONあか데미。

わたしたちの平和教育の学校の名は、『神々の発見』に齋藤先生が書かれた「縄文アカデミー」ということばに学び、表記を変化させ、未来のやすらぎを祈ることばとしました。

縄文るねっさんすがはじまる。

十四世紀から十六世紀のヨーロッパ、古代のギリシャ・ローマにもっと注目しよう、そ

して新しい学問と新しい芸術を興そう、そういう運動、ルネッサンスがありました。

今、実にこのわたしたちの住む日本列島を、貴重な博物館のように扱い、縄文るねっさんすがはじまります。日本発の運動ですから、るねっさんす、とひらがなで書きます。

日本は西暦六六三年、白村江はくせんこうの戦いで敗れ、中国文明のすごさに驚きました。それ以後、中国文明の影響を強く受けました。日本語の文字は漢字かなまじり文です。漢字は中国文

化、かなは日本文化です。

今、わたしたちは、白村江敗戦より前の、日本文化の基礎を、見つめ直します。そして新しい学問と新しい芸術を興していきます。

最古の共通の夢想

そういう祖先追想の道は、北極星に関係する、人間最古の信仰があったこと、今の臨死体験にも似た、夢想があったことに、想い至るようです。民族闘争というものがまだない

ころの、世界共通の夢想です。そういうことが、長野県で見つかった、有名な土偶からわかる。縄文のビーナス（この本の表紙参照）と呼ばれる、美しい土偶の頭部に刻まれた、「縄文記号」からわかる。それが齋藤守弘先生の小説です。なお、縄文時代・弥生時代・古墳時代と分けられています。それらのすべてを貫く、縄文文化という基調があるようです。たとえば、世界最大の古墳の仁徳天皇陵が大阪府堺市にあります。その前方後円

墳の前方後円という壮大な形状そのものが、「縄文記号」であると、齋藤先生は指摘しています。

理想

そしてわたしたちの「やすらぎ茶室チェーシるね（仮称）」の理想は、シヤカ個人とマルクス個人と孔子個人とキリスト個人とマホメット個人の、それぞれの代弁者が円卓会議をしやすい空間をしだいに創っていくことで

す。縄文のストーンサークルのあり方にも関係するかもしれません。異質な文化が平和に討論し、しだいに矛盾を解決していく空間を、新しい学問として、新しい芸術として、デザインしていくこと。このことこそが、平和運動の本質である。これがわたしの持論です。全面統一の夢です。

ここで、各偉人について、いちいち「個人」と断つたのは、なぜか。それぞれの偉人に深く学んだと自称する後世の組織群は、それぞ

れ組織として生存するため、その時その時の民衆や諸権力に迎合したから、ほとんど、偉人のありのままの姿を伝えなくなっている。そう、わたしは思うからです。

世界の七大民族主義は、以下です。

西欧人の哲学とプロテスタント、南欧人の哲学とカトリック、東欧人の哲学とギリシャ正教、イスラム人のイスラム教、中国人の儒教と道教や中国仏教、インド人のヒンズー教、チベット人のチベット仏教。

「諸文明人の誇りと、思考や情念の固い殻を少しずつ溶解させていくお世話役」に、わたしたち日本人はなりたいです。日本人の神道と日本仏教を未来的に芸術化しつつ。

最終的には、国家というものが必要でなくなる未来の現実を予想したいです。

そういう新しいまじめな希望のもとに、平和教育商業経営システムを、わたしたちは構築します。すでにインターネットなどを通して、諸文明の情報が混乱し始めています。そ

ういう情報をわかりやすく整理することと、

日本の家庭の問題や、日本の中小企業の問題を解決することは、無関係ではありません。今の日本人は、アメリカのイメージに頼ろうか、中国のイメージに頼ろうか、それともどうしようかなどと、迷っている人が多いからです。

日本列島を平和観光地にリニューアルしましょう。米日中各文化のバランスを追求しましょう。

わたしたちは日本と世界のお客さまのため

に平和教育の効率と事業成長の効率を追求します。わたしたちは、凜として、人間社会の安心への道を販売いたします。